

## ★ 侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生に警戒してください！！ ★

全国のモモ、ウメ、サクラなどで侵入害虫クビアカツヤカミキリが発生し、その被害が拡大しています。平成29年7月21日現在、本種は、徳島県、大阪府、愛知県、東京都、埼玉県、栃木県及び群馬県の7都府県で発生が確認されています。京都府内で本種の発生は確認していませんが、隣接する大阪府では、ウメ、サクラで発生が確認されており、今後、京都府内でも発生する可能性がありますので、発生に十分警戒してください。

1 作物名 モモ、ウメ、カキ、サクラなど

2 病虫害名 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)

3 警戒地域 府内全域

### 4 生態及び被害状況

- (1) 幼虫がモモ、ウメ、サクラなどの生木の内部に食入・加害することで樹勢を低下させます。
- (2) 幼虫は、樹幹内で2～3年かけて成長、蛹となります。
- (3) 樹を加害する際には、うどん状（ミンチ状）のフラス（木くず）を排出します（写真1）。
- (4) 我が国の発生地では6月中旬～8月上旬頃に成虫となって樹木の外に脱出します。
- (5) 成虫（写真2）の体長は、約2.5～4センチ。全体的に光沢のある黒色で胸部（首部）は赤色です。
- (6) 寄主植物として、モモ、ウメ、サクラ、カキ、オリーブ、ハコヤナギ、セイヨウスモモ、ザクロ、コナラ、ヤナギなどが確認されています。

### 5 防除対策

- (1) 樹幹をよく観察し、フラス（木くず）が確認された場合には、成虫の発生する時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。
- (2) 成虫を見つけた場合は捕殺します。
- (3) 登録薬剤を用いて防除します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、薬液が幼虫に十分かかるようにします。
- (4) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、成虫の発生時期（6～8月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを樹幹に巻き付け、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺します。

### 6 その他

- (1) ほ場やサクラにおいて本種を見つけた場合には、直ちに病虫害防除所（電話：0771-23-9512）などの指導機関までご連絡ください。

(2) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照してください。  
 (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

表1 クビアカツヤカミキリの登録薬剤（平成29年7月28日現在）

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	使用回数	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数
もも	3A	ロビンフッド	カミキリムシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	2回以内	7回以内（噴射は2回以内、散布は5回以内）
		ベニカカミキリムシエアゾール					
うめ		ロビンフッド					5回以内（噴射は2回以内、散布は3回以内）
		ベニカカミキリムシエアゾール					
かき		ロビンフッド					2回以内
		ベニカカミキリムシエアゾール					
果樹類（注1）		ロビンフッド	2回以内				
		ベニカカミキリムシエアゾール					
さくら	クビアカツヤカミキリ	6回以内					
	ベニカカミキリムシエアゾール						

注1：かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちよう（種子）、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき（種子）を除く

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee（殺虫剤抵抗性対策委員会）が取りまとめた分類コード



写真1 クビアカツヤカミキリのうどん状（ミンチ状）のフラス



写真2 クビアカツヤカミキリの成虫（右：雄成虫、左：雌成虫）